

異業種と連携した魚食普及・販路拡大のためのイベント開催

熊毛支庁 林務水産課

【背景・目的】

熊毛地区の水産業を取り巻く環境は、燃油高騰や魚価低迷により非常に厳しい状態にあり、とりわけ魚価低迷は漁家収入に直結しているため漁業者の経営を圧迫している。漁業者の経営安定のためにも、魚価向上に繋がる販路拡大や魚食普及の推進が望まれているが、これまで、それらに関する取組は漁協等水産サイド単独の取組が多く、島内外に渡り広くPRできるような規模での趣向を凝らしたイベントは行えていなかった。

そこで、地元の旅館・ホテル業界や飲食店経営者等の異業種と一体となった組織を設立し、地元で獲れる魚の消費拡大と魚食普及を図るため「お魚祭り」と併せて、地元の魚介類を利用した新メニューや新たな特産品の開発を促しつつ、各旅館施設等がそれぞれに魚介類を用いたメニューを客に提供する複合イベントの開催を目指した。

【普及の内容・特徴】

1 異業種と一体となった組織の設立

種子島島内の漁協，観光協会，商工会，行政機関等に呼びかけ，イベント開催のための実行委員会として「種子島のさかな魅力発見・発信委員会」を設立した。また，委員会の下部組織としてワーキンググループ（以下WG）も同時に立ち上げた。

2 販路拡大や魚食普及を目的としたイベントの実施

上記委員会及びWGで検討を重ね下記のイベントを実施した。

(1) たねがしまお魚祭りの開催

従来漁協が主体となって行ってきた「たねがしまお魚祭り」をたねがしまお魚食べつくしフェアのオープニングイベントとして規模を拡大して実施した。

(2) 種子島のお魚食べつくしフェアの開催

協賛店が地元の旬の魚介類を用いた「自慢の逸品」メニューを選定し，フェア期間中来客者に提供するイベントを企画し，ガイドマップ等を作成の上，島内外へ広くPRした。

また，来訪者に対するアンケートを実施するとともに，今後の魚食普及活動等の参考とするため，アンケート回答者への景品提供等を実施し，集客力向上にも努めた。

【成果・活用】

1 異業種と一体となった組織の設立

島内の全漁協，観光協会，商工会，行政の参加の下，種子島では初となる異業種間で連携した販路拡大や魚食普及を図るための委員会を組織することができた。

2 販路拡大や魚食普及を目的としたイベントの実施

(1) たねがしまお魚祭りの開催

平成24年10月14日（日）に実施したイベントでは，鮮魚販売，巨大魚解体ショー，体験クルージング，イセエビ汁無料配布等を行い，約1,400名の来場者を集め，魚食普及が図られた。

(2) 種子島のお魚食べつくしフェアの開催

種子島島内の飲食店27店舗の参加を得て，平成24年10月14日から11月18日の約一ヶ月間食べつくしフェアを開催した。なお，来店者からのアンケートは394名分回収することができ，今後の取組の参考となった。

【その他】

地元のイベントとして定着させるため，内容を充実・拡大させながら，継続実施していくこととしている。

種子島のさかな魅力発見・発信委員会の構成

	所属	役職名	備考
1	種子島漁協	組合長	会長
2	南種子町漁協	組合長	
3	種子島観光協会	会長	副会長
4	西之表市商工会	会長	
5	中種子町商工会	会長	
6	南種子町商工会	会長	
7	西之表市	農林水産課長	監事
8	中種子町	農林水産課長	
9	南種子町	総合農政課長	
10	熊毛支庁	林務水産課長	監事

イベントポスター



イベントパンフレット（表）



イベントパンフレット（内容の一部）



オープニングイベント （巨大魚解体ショー）



オープニングイベント （お魚つかみ取り大会）

